

(様式1)

## 玉川ホーム運営推進会議報告書

開催日時	平成25年12月20日(金) 14時30分~15時00分	
場 所	あたみホーム 会議室	
	参加者	議 題
利用者	1名	1 報 告
利用者の家族	1名	(1) 施設の現況について
地域住民の代表者、 知見を有する者	1名	(2) 被災施設応援計画書について
郡山市の職員	名	2 意見交換
熱海地域包括支援センター職員	1名	
事業所	2名	
会 議 録		
1 報 告		
(1) 施設の現況について		
・ 利用状況 別紙のとおり		
・ 活動状況 別紙のとおり		
(2) 被災施設応援計画書について		
火災又は自然災害等が発生した場合の、被災施設への応援を円滑に行うことを目的とする、県中地区災害時施設相互応援協定書に基づく応援要請及び避難受入れに対応するため、被災施設応援計画書を策定しました。		
2 意見交換		
(利用者様) ホームは家と違って暖かくていいですね。私は今回骨折してしまって3ヶ月入院生活をしてきました。皆さんに心配かけてしまいました。今は良くなりましたが2人介助でトイレに行っています。		
(園長) 痛みはないですか。		
(利用者様) 痛みはなくなりました。リハビリを毎日やっています。骨折した時はこれで私も、もうダメかと思いましたが、お陰様でここに居られれば長生きできます。		
(園長) ご飯も美味しく食べられますか。		
(利用者様) 食べられますよ。今日はクリスマスのバイキング食でチキンの大きいのとエビフライ、クリスマスケーキなどいろいろあって、豪華で美味しかったです。私はホームに来て10年になりました。		
(園長) こんなことをやって欲しいということはないですか。		
(利用者様) 特に無いです。毎日、余暇活動に参加して運動したり、ボケないように自分で日記を付けたりしています。また、書道クラブ、生花クラブも楽しく行っています。これらをやっているから長生きしていただけると思います。お世話		

になります。

(園長) これからも元気に頑張ってください。

(利用者様のご家族) 寒くなって来ましたが、風邪もひかず落ち着いて過ごさせていただいております、ありがたいと思っています。

(園長) 11月12月と南棟、中央棟と風邪が流行りました。今後も職員のマスク着用や手洗いうがいなどを徹底して十分注意していきます。

(地域包括支援センター職員) 在宅で暮らされている方々の訪問などでお世話になっています。2人暮らしでうち1人が入所されているケースです。お家の方は、本当は家で見て行きたいけど難しいからと施設にお願いしました。ご家族は、入所された方が、認知症があってなかなか施設に慣れなかったり、ご家族が駆けつけても何も出来ず、行ったことで却って刺激になるのではないかと、施設から出なくてはならないのではないかと恐怖心などがあり複雑な思いでいます。ご家族の方には施設の相談員や介護、看護等の職員に相談しながら対応していった方が良いでしょうと声掛けをしています。すぐには解決できませんが利用者の方もご家族の方もいい状態で生活を送られればと思っています。

(園長) ご家族の方は施設に入所され、少しは「ほっと」されている所もあると思いますが、施設で馴染んでいるか慣れたかと心配される所もあります。

(介護長) 入所して慣れてきた頃、不穏状態があってご家族に何度か来ていただいたことがあります。ご家族の方にとっては、行っても何もできない、どうしていいかわからないという不安があることだろうと思ひ迷惑をかけて申し訳ないという複雑な気持ちでした。本人が家族を呼べと言って実際に来ても認知症のため「何しに来たんだ。」という言葉が出たり、ご家族に来ていただいても利用者様が落ち着かない場合があり、今後もこのようなケースが増えていくと考えます。施設だけでは対応が難しいケースがあることをご理解いただき、また、利用者様とご家族のつながりを大事にしていきたいと考えておりますので、これからもご家族のご協力をよろしくお願いいたします。

(園長) 最近の入所される利用者の多くは高齢世帯の方で、1人が入所すれば配偶者の方も高齢なため、ご家族の(配偶者)方も含めてのケアが必要となります。

(地域包括支援センター職員) から何かありましたらホーム職員におっしゃっていただければと思います。

(地域住民の代表) 私たち、ボランティアのメンバーも高齢になってきており、活動はできても周りから高齢者と見られないように「シャキ」っとしなくてはいけないと思っています。この前、私たちは、ゆうあい訪問という活動を行いました。この活動は、行政センターの調理室でおふかしときんぴらごぼうを作り、それに生花とみかんを付けて2人で1人暮らしのお宅を回り、お話を伺いながら安否確認も含めて行ったものです。また、玉川ホームに伺う機会が多くあり、常にコールが鳴っていて職員の皆さんがじっとしてられない状態を見て大変だなと感じています。

(介護長) 確かにナースコールは多いのですが、その理由は用事があるのコールの他に、センサー類の使用があります。センサー類は、転倒の危険性のある方に使用しており、コールがあれば急いで伺うようにしています。

(地域住民の代表) 私たちに声を掛けていただければ協力していきたいと思います。高齢といってもできることはあると思います。

(園長) 今回、(地域包括支援センター職員) から新しい入所者と家族の関わりについての話があり、私たちはこの辺りの様々な状況を、色々と勉強していかなくてはならないと感じました。これからも利用者の皆様が、ホームでの生活を楽しく元気に送られますよう、サービスの向上に努めて参りたいと思います。